

平成 20 年 8 月 29 日

南海電気鉄道株式会社

大手私鉄で唯一の展望デッキスペースを設置  
**南海・高野線で「観光列車」を導入！**  
**観光列車の“愛称”を募集します**

南海電気鉄道（本社：大阪府中央区、社長：亘 信二）では、「こうや花鉄道」プロジェクトの一環として、平成 21 年春の完成を目指し、世界遺産・高野山へ向かう「観光列車」（2200系の改造車両）の製作を進めています。森林をイメージした深いグリーンを基調とする車体の側面に大型窓を採用。その大型窓に向けて設置した「ワンビュー座席」や、全国の大手私鉄で唯一の「展望デッキスペース」などから、山岳区間の風景を一望していただけます。

導入に伴って当社では、観光列車の“愛称”を一般公募します。



観光列車（外観イメージ）

## 1 . 観光列車について

- (1) コンセプト 観光列車は、高野山という目的地に向かう道中である列車の旅を、日常世界から高野山の自然・精神世界への移行の過程として、俗世間から精神世界へと「Change of mode」できる乗り物をコンセプトにしています。国内有数の山岳区間を経ながら旅気分への切り替えができ、感動や思い出への期待感が増幅されていくことを狙っています。
- (2) 運行区間 高野線・橋本～極楽橋間(19.8km)
- (3) 観光車両 2両1編成(指定席車両×2)  
現在、南海線の支線などで運用している一般車両2200系を改造して使用します。  
既存車両による自由席車両2両と連結して計4両で運行します。
- (4) 指定座席数 2両合計76席(高野山・極楽橋側から37席+39席)  
座席指定料金など詳細は未定です。
- (5) 車両完成予定 平成21年春  
運行開始日は決まり次第発表します。
- (6) 運行本数 1日1往復または2往復(所要時間:片道約40分)
- (7) 主な設備 座席は、線路の北側・西側に広がる紀の川・不動谷川や険しい山間の風景を見渡すことができる「ワンビュー座席」や、4人掛けの「コンパートメント座席」などを設けます。  
高野山・極楽橋側の車両に「イベントスペース」を設けることで、ミニイベント実施が可能となります。  
難波・橋本側の車両には森林の空気(外気)を取り入れる「展望デッキスペース」を設置します(全国の手私鉄で唯一)。



ワンビュー座席(イメージ)



展望デッキスペース(イメージ)



